



MASUDA City Council News

ますだ市議会だより

2025

8

August

No.154

〓 匹見で暮らす〓

元・地域おこし協力隊 原田千栄さん

はらだちえ



特集

P02▶▶ 議員と語ろう井戸端会議 part2

Pick up

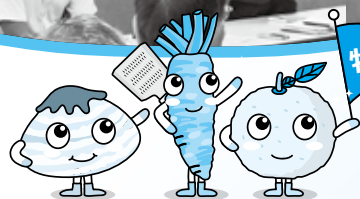
P03▶▶ 第570回 6月定例会

令和7年8月1日発行

編集・発行

益田市議会 〒698-8650 島根県益田市常盤町1番1号

TEL: 31-0490 FAX: 23-0920 e-mailアドレス: gikai@city.masuda.lg.jp



議員と語ろう井戸端会議

Part 2

令和6年10月15日～11月15日にかけて開催した「議員と語ろう井戸端会議」（議会報告会）について、皆さまから寄せられたご意見の一部をご紹介します。

防犯対策のため、
街路等に防犯カメラの
設置が必要では



街灯のLED化に
助成制度の創設を！



介護人材の
確保が必要！

児童生徒のタブレットは、
もっと有効活用を！



駅にあるバスターミナル、
土日にも開放して
もらえたら…

審議会等に、
もっと女性の登用を！

農地の維持が大変！
草刈りの単価
引き上げを！！

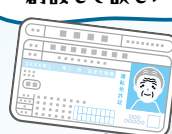
七尾山を整備することで
山歩きができて、健康増進にも
つながるのでは…

公民館の防災備品が
不足している。
しっかりした備えを！



水仙公園の
管理に補助金を！

運転免許証を返還
した際の特典制度を
創設して欲しい！



もっと空き家対策の取組を
すべきではないか！

匹見峡温泉やすらぎの湯
お盆にも営業して欲しい！

地域自治組織への
予算配分等をしっかり示して、
柔軟な協力を！

高津柿本神社の
駐車場に、
トイレ設置を！



益田市議会では、これまで以上に市民の皆さまとの垣根を取り払った意見交換会を目指し、令和6年度は、「議会報告会」に「議員と語ろう井戸端会議」の呼称を付け、議会・議員の活動報告として、定例会の様子を中心としたショートムービーを作成し、意見交換会との2部構成で実施しました。

今後も、より開かれた議会の実現のため、議会報告会や意見交換会の場を設けていく方針です。

市内20地区での意見など
詳しくは、コチラ →



一般質問

一般質問とは、議員が市の行財政全般について、市と政策討論するものです。
令和7年6月定例会では、12名の議員が登壇しました。



- ※一般質問の様子の録画中継を、全会期日程終了の約1週間後から配信しています。
- ※会議録は定例会終了3カ月後から閲覧できます。
- ※各議員名の下の二次元コードからスマートフォンなどで質問者の動画がご覧いただけます。

益田市議会

検索



第570回 6月定例会

6月定例会では、補正予算を審議したほか、特別委員会の2年間の取組について議長へ委員長報告を行いました。

5/30

議会運営委員会

6/6

本会議
全員協議会

令和7年度補正予算等の上程

6/13

本会議 一般質問、
議会運営委員会

4ページ〜

6/16

本会議 一般質問

6/17

本会議
全員協議会

議案の追加上程
請願・陳情の上程

12ページ〜

6/19

総務文教委員会、
広聴広報委員会

付託議案について、総務文教委員会で審査
広聴広報委員会の2年間の取組について確認

6/20

福祉環境委員会、
農業振興対策特別委員会

付託議案について、福祉環境委員会で審査
農業振興対策特別委員会で、2年間の調査・研究の
審査報告内容を確認

6/23

経済建設委員会、
萩・石見空港対策特別委員会

付託議案について、経済建設委員会で審査
萩・石見空港対策特別委員会で、2年間の調査・研
究の審査報告内容を確認

6/24

一般会計予算審査委員会

令和7年度補正予算について審査

13ページ〜

6/25

議会運営委員会

6/26

本会議
全員協議会

各常任委員会委員長による審査結果報告
追加議案上程、議案等に対して質疑・討論ののち採決
各特別委員会委員長による審査報告

14ページ〜

問 益田市SNSなどに手話動画の掲載を

答 手話動画の発信にむけて
発信のあり方などを研究していく



とよ ひろし 豊田 浩 議員



問 情報発信は、日本語言語だけではなく手話動画の掲載も必要と考えるがどうか。

答 動画配信が可能な媒体として、益田市LINE公式アカウントなどを運用している。手話動画の配信については、内容の整理はもとより手話通訳者の協力が欠かせない。このため、関係者及び関係機関と協議し、発信に対するあり方などを研究したい。

問 社会福祉士の採用、配置について問う。

答 社会福祉士は、専門的知識及び技術を持ち、日常的な支援・相談などに対応する。当市では、福祉分野の専門職として、さまざまな福祉課題に対応し、福祉行政を

より良く進めるため、7名を採用し、必要な部署に配置している。社会福祉士の職員の人数が増えたことにより、これまでさまざまな社会福祉部署で積み重ねた知識や経験を、相互に学び合う事ができている。一つの課に複数人の社会福祉士を配置することにより、日々の業務において相談協力しあえる体制があり、職場内において人が育つ環境が構築されている。今後福祉サービス向上のため、人材育成の観点も踏まえた適正な配置を検討していく。



問 小中学校特別教室へのエアコン整備の検討は

答 財源や計画的な設置を含め、現在研究を重ねている



こう の とし 河野 利文 議員



問 小中学校の冷房設備は、普通教室のすべてに設置が完了している。特別教室（理科室・音楽室・図書室など）へのエアコン整備について、今後の計画を問う。

答 エアコン未設置の特別教室は、小学校で30教室、中学校で33教室ある。

昨年度の教科ごとの授業実施時間数、それに伴う特別教室の年間使用回数を調査し、活用頻度を求め、学校への聞き取りを行う中で、必要性の高い教室への設置を検討する。

併せて、開口部の大きい学校図書館への整備についても検討を進めていきたい。

また、優先的に進めている学校トイレ等の改修を踏まえ、限られ

た財源の中で、具体的な計画の策定に向けて、引き続き研究を重ねている。

問 島根県立大学との連携について、これまでサテライトキャンパスの設置という方向性も出されていたが、その後の協議の状況はどうなっているか。

答 島根県立大学側に、益田市の人づくりや学校を核とした地域づくりの取組の状況を伝えるとともに、サテライトキャンパスについての大学側のメリットなど、教授や学務関連の職員へ示しながら協議を進めている。



エアコンが設置されていない
理科室や家庭科室

問 秘書広報課の果たす役割は

答 情報発信の窓口を一本化し、質の向上と強化を図っていく

問 今年度設置した秘書広報課の果たす役割と目指す方向性を問う。

答 情報発信の窓口を一本化し、質の向上と強化を図っていく。庁内各部署においてさまざまな発信媒体によって発信が行われているが、媒体選択などは部署ごとの対応となっており、適切な情報発信ができていない現状がある。優良事例や専門的知見をもらいながら、各媒体の強みを活かした発信のあり方を研究していきたい。

問 都市から地方への人の流れを生む二地域居住の促進につながる動き、また促進への具体的な取組について問う。



たかはし ともりのり 議員



情報発信の基盤となる
益田市公式ウェブサイト

答 IT企業の誘致や人材育成の拠点整備に関する要望を島根県に申し行っている。今後も二地域居住者のニーズに対応した取組を進めたい。また、国においては地方における関係人口増加へ向けた取組を加速させており、二地域居住というライフスタイルの認知も高まっている。現在、事業展開に向けた研究を行っている。

問 官民が一体となつて情報交換や検討提言を行う「全国二地域居住等促進官民連携プラットフォーム」への加入の是非を問う。

答 現在、加入の手続きを進めるよう指示をしたところである。

問 国の示す米の増産について、当市の見解は

答 新たな米の管理流通制度が打ち出された時は、しかるべき対策を行う

問 「第2次ますだ食と農の基本計画」の中で、農業者や農業関係機関、行政のみならず、すべての市民が食と農の重要性を認め、互いに協力しながら、「安心・安全な食」と「持続的に発展する農」を確立することを基本理念と示しているが、国が示す米の増産という方向性の中での、今後の考えを問う。

答 引き続き、地域の農業者の意見や実情を十分に考慮しながら、持続可能な農業の発展を支える施策を進めていくが、今後、国による新たな米の管理流通制度が打ち出された場合は、しかるべき対策を行う。



ながと あけみ 議員



搾乳ができる事を示す
シンボルマーク

問 搾乳マークというものがある。これは、赤ちゃんに母親が搾乳するために利用できる場所を示すものである。このシンボルマークは、趣旨に沿った目的であれば自由に使用できるもので、申請も必要ない。授乳室に搾乳マークを取り付けることで、母親が安心して搾乳できる環境も生まれる。まずは、公共施設から取付けを行うべきと思うがどうか。

答 一人でも安心して授乳室を利用できるよう、まずは、市役所本庁1階のベビールーム及び市立保健センター内の授乳室に、搾乳ができる旨の表示を行う。

問 困難事例における里親制度等の活用を問う

答 短期入所生活支援事業を実施し、里親等に委託している



ひらはら ゆういち 議員 平原 祐一



問 家庭内の虐待等の困難事例について、里親制度等をどのように活用してきたか。

答 虐待等を未然に防ぐ目的から、保護者等の申請により一時的に預かりを行うショートステイ事業（短期入所生活援助事業）を実施し、里親等に委託している。

問 里親を増やすため、どのような取組を行っているか。

答 県・児童相談所と連携し、里親制度に関するリーフレットの配布やポスター掲示、里親月間に合わせた市広報ますだへの掲載等で周知している。

問 現在実施している子育て短期支援事業は、ショートステイ事業のみである。トワイライト事業（夜間養護等事業）はなぜ実施しないのか。

のか。

また、年齢要件は中学校就学前までだが、18歳まで受入れが可能な自治体もある。受入要件も、当市は冠婚葬祭や出張・残業等の仕事上の都合、学校等への公的事業の参加を認めていない。拡充すべきではないか。

答 事業を開始した平成30年当時、委託先はファミリーホーム1か所のみであったため、保護者・児童が確実に事業を利用できるよう、利用要件等を限定した。委託先も増えたので、今後は保護者のニーズや委託先の状況を見ながら、要件緩和やトワイライト事業の実施も検討する。



里親制度に関するパンフレット（子ども家庭庁より）

問 目指す“自転車のみち”の将来像を問う

答 「益田市自転車活用推進計画」を推進し、“自転車のみち益田”を実現したい



さいとう かつひろ 議員 齋藤 勝廣



問 近隣他市に先駆けて取組んできた自転車施策について、目指す「自転車のみち」の将来像を問う。

答 「益田市自転車活用推進計画」において、自転車で暮らしやすいまち、訪れたいまちを掲げ、“自転車”で快適100%、自転車事故がゼロのまち、益田を知らない人ゼロ、感動100%のまち益田”を実現していきたい。

問 自転車によるまちづくりの推進について、健康増進分野での自転車利用の機会創出に関する取組である行政職員を対象としたマイサイクルデーの推進状況を問う。

答 自家用車の依存度が高い傾向にあることから、自転車利用の機会創出のため、市役所職員を対象に、毎月8のつく日を積極的に自

転車を活用する日として自転車通勤の促進を図っているが、まだまだ浸透していない状況である。改めて市職員に向けて自転車通勤の普及啓発を継続して図っていきたいと考える。

問 これまで行ってきた自転車施策が繋いだ交流事業の推進を問う。

答 自転車を通じたアイルランドとの縁を途切れさせることなく、さまざまな形での交流を模索していきたいと考えている。今後も自転車によるまちづくりを推進していきたい。



「第2次益田市自転車活用推進計画」

問 太陽光発電を規制する条例制定の検討を

答 市内の状況や他市町の事例を調査し、必要性を検討していく

問 再生可能エネルギーの固定価格買取制度の開始以降、太陽光発電が急速に普及し、事業者による大規模な施設以外にも、個人の土地に太陽光パネルが設置されるケースが、近年、当市でも増加している。一方で、動植物の生息環境や景観への影響、土砂流出等の可能性や住民同士のトラブルなど、あらゆる問題が生じている。当市では発電設備の設置をどの程度把握できているか。

答 一定以上の面積の場合、国土利用計画法に基づく届出が必要となり、農地に設置する場合は農地法に基づく転用の届出や許可申請が必要であるため把握できるが、太陽光発電設備設置自体の届出等

は不要であるため、それ以外の土地については把握できていない。

地については把握できていない。

問 国・県・市いずれも再生可能エネルギーを推進している。一方で、今ある自然や住民の生活環境の保護とのバランスをとり、相互理解のもとで進めるよう整備するのが行政の責任である。住民間や、設置業者とのトラブルを減らし、誰もが安心して暮らせるよう、隣人や自治会代表者の同意を得ることなどを義務付ける条例制定を視野に、一定のルールを検討する必要があるのではないか。

答 まずは、市内の状況把握や他自治体の事例を調査し、条例制定の必要性を検討していく。



須藤 三 議員



農地に設置された太陽光パネル

問 当地の有機農産物を学校給食へ利用する考えは

答 食材の数量、大きさ、安定的な確保、納入価格調整など課題がある

問 平成29年12月、議員提案により「まずだ食と農の市民条例」を制定した。市民・農業者・農業関係機関、教育行政の意識向上行動や取組の成果・評価を問う。

答 令和6年度に保幼小中を対象とした農業体験や高校生の将来への進路選択、市民農園の貸し出し、有害鳥獣防除講習会等を実施し、推進を図った。

問 教育方針における食育についての取組を問う。

答 食と農のつながり等への理解を深めるための学習を進めている。また、農業に従事する生産者の人々と対話交流学習を行った。

問 市議会では、農業振興対策特別委員会を設置し有機農業に関する調査・研修に取組んできた。安

心安全な有機農業施策を問う。

答 引き続き、国や県の補助を活用し、有機農業に取組む組織を支援するとともに、組織数・取組面積の拡大を図る。

問 「まずだ食と農の基本計画」の本気度と覚悟を問う。

答 まさに農業は地域の基幹産業であるが、非常に厳しい状況にある。計画に基づいた施策の総合的かつ計画的な推進を通じ次世代につなぎ、持続可能な農業や自然環境を育む。さらに、豊かで健康的な市民生活の実現、健全な地域経済の発展に努める。



大久保 五郎 議員



有機農法に取組む柿園（西条柿）

問 代替交通でクローズドドア実現を求める

答 他の交通機関との関係にも配慮しながら慎重に検討を進めていく



さつこ 議員
やいぢ 弥重



うが、事業者に対し住民にも説明するよう求めたのか。

答 住民からも交通事業者による説明要望があり、事業者へ伝えただが、「行う予定はない」という返事を受けている。

問 匹見線も都茂線も、廃止に伴う代替交通の乗合タクシーで益田駅や日赤病院へ乗り換えなしで行けるようにしてほしいと住民から強い要望がある。浜田市の有福線はクローズドドアを導入。市役所や浜田駅へ乗り継ぎなしで行ける。当市でも実現できないか。

答 クローズドドアは他の交通機関との利用状況に一定の影響を及ぼす可能性も指摘されており、利便性向上の効果だけでなく、他の交通機関との関係にも配慮しながら慎重に検討を進めていく。

問 浜田市は、有福線廃止の際、事業者に対し廃止理由を住民に説明するよう要望、快諾してもらったという。都茂線廃止の理由は「事業の効率化を図るため」とい



匹見行き乗合タクシー
(横田町の養護学校前停留所)

問 路線バスの廃止ドミノを防ぐために、地域公共交通会議で代替交通も含めて協議が整ったのちに、廃止届をするよう、制度化することが重要ではないか。

答 全国にそういう事例があるかと思うので、そうしたところを参考にしながら検討していく。

問 コメ価格の高騰による影響は

答 国の施策を注視し、関係機関と連携を強化して情報収集に努める



あきら 議員
かわもと 河本



なことがあれば生産者は再生産することが困難になる可能性が懸念される。

価格については、消費者と共に考える機会を持ち、施策を講じていくべきと考えるがどうか。

問 コメの販売価格の上昇は、中山間地域の振興にとってチャンスであり、今、農業に施策を施し持続可能な地域を目指すべきと考える。コメ価格の高騰に対する影響について問う。

答 こうした状況は、改めて食料の安定供給や地域農業の重要性について考える機会となった。農業の持続的発展と、消費者への安定供給の両立が重要課題と考えている。国の施策を注視するとともに関係機関と連携を強化し、地元産米の流通促進や適切な情報収集に努めたい。

問 全国で備蓄米の販売が始まっている。政府はコメの価格を下げることに注力しているように思う。来年度以降、価格が暴落するよう



田植えが終了した水田

答 政府は「食料等の流通の合理化及び取引の適正化に関する法律及び卸売市場法の一部を改正する法律案」を閣議決定し、現在国会で審議中である。この法案は、米を含む農産物の適正な価格形成を目的とした、生産・加工・流通・消費の各段階におけるコスト指標を設定するものであり、法案の動向を注視していく。

問 外国籍就労者の現状を問う

答 職種や作業などの制約があるが、就労者の数は増加が想定される

問 外国籍就労者の現状を問う。

答 日本全体の人口が減少する中で、労働力不足は大きな社会問題となっている。外国人の雇用は、働くことができる職種や作業などの制約はあるが、外国籍就労者数は増加傾向にあり、当市においても一年間で66名増加している。

問 外国籍就労者の効果・役割についての評価を問う。

答 多くの業種において外国人は欠かせない存在となり、地域の人材不足の緩和と地域経済の活性化につながるかと考えている。

問 外国籍就労者がいる事業者の困りごとを把握しているか。

答 産業支援センターでは企業からの相談を受けたことはないが、毎月開催する産業支援センター連



あちはたけお 阿知波 武雄 議員



外国籍就労者が働く職場

絡会や県の情報窓口と連携しながら支援をしている。

問 外国籍就労者に対する対策を問う。

答 国の共生社会の実現に向けたロードマップに基づき、地域の中で安心、安全に暮らせる多文化共生のまちづくりに取り組んでいく。

問 外国籍を持つ児童、生徒の在籍状況を問う。

答 5月1日現在で、小学校に7名、中学校に2名が在籍している。

問 核のゴミ、文献調査受入れの考えを問う

答 文献調査の受入れは反対である

問 新聞の一面に、「益田で 原発の核ゴミ 文献調査を検討 経済界の一部 議会請願を探る」という記事が出た。報道後、丸山県知事は反対を表明し、市長自らも請願書提出予定者と面会し、請願書提出を取り止めるよう勧告した。その結果、請願書提出は断念し、今後、誘致活動等は一切行わないということになった。

答 日本共産党が核のゴミ処分場を設置させないことを求める要請を行った際には、明確に賛否を回答しなかった市長が、勧告を行うに至った理由を問う。

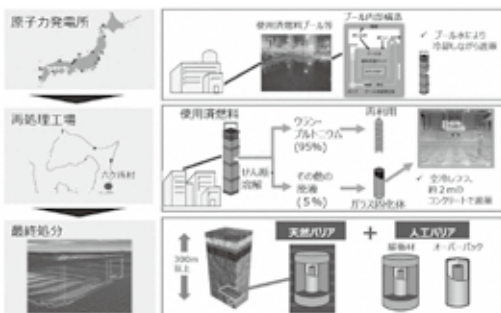
答 請願が提出された場合の懸念はあったが、推進理由や議会及び市民の反応と議論の内容を確かめた上で、判断する考えであった。

報道後、抱いていた三つの懸念事項が顕在化した。一つは賛否が対立し、市を二分する事態になること。実際に、多数の厳しい反対意見が届いた。二つ目は、風評被害により農林水産業や観光振興へダメージを与えること。三つ目は、近隣市町の首長から反対の意向や同様の懸念が示されたこと。

こうしたことから、紛議を避け、事態を収拾すべきとの考えから勧告を行った。私が反対の立場であることは当然である。



あだちみつこ 安達 美津子 議員



発電から最終処分までの流れ (エネルギー庁HPより)

出席議員全員が賛成した議案

(全会一致で、議案は「可決」、報告案件は「承認」、請願・陳情案件は「採択」とされました。)

議案番号	件名
市長提出議案	
議第45号	益田市地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律に基づく固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例制定について
議第46号	益田市予防接種事故災害補償条例の一部を改正する条例制定について
議第47号	令和7年度益田市一般会計補正予算第1号
議第48号	令和7年度益田市下水道事業会計補正予算第1号
議第49号	土地改良事業計画の概要について
議員提出議案	
議第50号	地方財政の充実・強化に関する意見書について
報告案件	
報第2号	専決処分の報告について
請願	
請願第3号	地方財政の充実・強化に関する意見書の提出について
陳情	
陳情第1号	山陰道益田西道路工事とそれに伴う石見臨空ファクトリーパークの諸問題について

賛否の分かれた議案

(棄権、除斥があった場合も含まれます。)

議案 番号	件 名	審議 結果	賛 成	反 対	福原 宗男	須藤 一二三	豊田 浩	永戸 明美	阿知波 武雄	平原 祐一	齋藤 勝廣	河本 亮	高橋 伴典	中島 賢治	弥重 節子	大賀 満成	河野 利文	安達 美津子	中島 守	林 卓雄	大久保 五郎	寺井 良徳	佐々木 恵二	久保 正典	
報告案件																									
報第3号	専決処分の報告について	承認	18	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○
請 願																									
請願第2号	石見交通路線バス都茂線の廃止に伴う移動手段の確保について	採択	18	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
請願第4号	益田市の学校や公共施設への生理用品の常備について	不採択	3	16		●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●

○：賛成 ●：反対 欠：欠席 棄：棄権 除：除斥

※ 議長（福原 宗男）は採決に加わりませんが、可否同数となったときは、議長が裁決します。

★除斥とは★ 議会における審議を公正なものとするため、議題となった案件と利害関係にある議員をその審議に参加できないようにすることです。

令和7年度補正予算案など原案どおり可決

6月定例会では、令和7年度一般会計補正予算のほか、条例の一部改正、一般議案等について慎重な審議をした結果、原案どおり可決・承認しました。

令和7年度一般会計補正予算 第1号

補正後の一般会計予算総額…… 279億3,945万8千円
補正額…………… 3,645万8千円 増額



総務費 地域振興費

コミュニティ助成事業費補助金 150万円
コミュニティ助成事業を活用した、防災備品の整備



総務費 統計調査費

統計調査経費 373万8千円
国勢調査委託費交付額の
増による増額



民生費 社会福祉費

高齢者福祉施設等補修改善事業費 510万円
七尾苑雑排水槽更新に伴う工事請負費の増額



衛生費 保険衛生費

高度医療機器等整備事業費補助金 2,500万円
益田赤十字病院が購入・整備する
高度医療機器（CT）に対する補助金の増額



教育費 教育総務費

いじめ・不登校等対策推進事業費 90万円
スクールソーシャルワーカー活用事業受託額の増額



教育費 社会教育費

市内遺跡発掘調査等事業費 22万円
埋蔵文化財包蔵地（七尾町）内住宅建設に伴う
発掘調査経費の増額

みなさんからの請願・陳情審議結果

請願・陳情審議結果 6月定例会受理分

議案番号	件 名	提 出 者	審議結果
請願第2号	石見交通路線バス都茂線の廃止に伴う移動手段の確保について	美都町自治会連合会 会長 加藤 正良 外3名	採択
請願第3号	地方財政の充実・強化に関する意見書の提出について	益田市職員労働組合 執行委員長 村上 智視	採択
請願第4号	益田市の学校や公共施設への生理用品の常備について	新日本婦人の会 益田支部 支部長 大賀 貴美枝	不採択
	生理用品は、トイレットペーパーのように当たり前に使っているものとして常備されるべきという請願の趣旨は理解でき、誰でも自由に使える環境を整えることが必要と考える。 しかしながら、学校や公共施設へ生理用品を常備した場合、相当な財政負担を伴うことから、国として取り組むべきと考え、本件については、不採択と決した。		
陳情第1号	山陰道益田西道路工事とそれに伴う石見臨空ファクトリーパークの諸問題について	里山自治会 会長 石橋 重幸	採択

審査結果

各委員会で審査した結果を
抜粋して掲載します。



総務文教委員会

益田市「教育に関する大綱」見直しのスケジュール示される

益田市「教育に関する大綱」は、平成27年6月に策定した。策定から10年以上が経過し、策定当時と児童生徒の背景も変化してきたため、全体的な見直しを総合教育会議で図っていく。

らしい進め方ではないのか。

答 教育審議会、総合教育会議は、既に協議が進められている現状である。精一杯調整をしながら進めていきたい。

問 「益田市教育ビジョン」の見直しが5月の調査会で示された。有識者で構成する教育審議会が答申する見直しに向けた内容を基に、教育委員会が策定にあたり、並行して総合教育会議が「教育に関する大綱」の策定に入る。違う会議体が議論していく中で、最終的にすり合わせするのは大変な作業になるのではないかと。

答 双方の会議を集約しながら一本的なものを持つて行く必要がある。

問 これまでは、「教育ビジョン」があり、それを参考に「大綱」を策定した。同時に改定するのは難しいのではないかと。「教育ビジョン」策定後に、「大綱」が策定されるか。



教育審議会の諮問書を手渡す
領家教育長（右）

見直しに向けたスケジュール

- 5月16日（金）
 - ・総合教育会議を開催
 - ・見直しに向けたスケジュールを確認
 - ・重点項目に係る各課の自己評価を基に意見及び評価を実施
- 7月
 - ・大綱見直し案骨子を作成
- 8月初旬
 - ・総合教育会議を開催
 - ・大綱見直し案骨子に対する意見集約
- 9月
 - ・見直し案を作成。
- 10月中旬
 - ・総合教育会議を開催。見直し案に対する意見集約
- 12月
 - ・大綱見直しを実施

福祉環境委員会

美作大学との包括連携協定に基づく共同研究

社会情勢や家族形態の変化により、これまでの制度や枠組みでは解決が困難な世帯が増加している。今後さらに複合化・複雑化する福祉課題に対応するため、令和6年度から美作大学と共同研究を行なっている。

う予定である。

今年度は「生活困窮世帯における子どもの食生活に関する考察」として研究を実施。実態調査を経て分析等が行われる予定である。なお、研究で得られた成果・知見は、当市の実態に即した福祉課題の解決に向けた政策形成や、人材育成・確保に繋がると期待している。

問 令和6年度の共同研究は、身寄りのない世帯を対象とした調査だったが、今年度の研究テーマは別の福祉課題となっている。一つずつ問題を深掘りすべきだと考えるが、今後の計画は。

問 調査研究の対象となる子どもについて問う。

答 今年度は、生活困窮世帯における子どもの食生活について課題が見つかったため、取組むこととした。来年度は、再び身寄りのない世帯を対象とした研究について取組むことを、大学とも協議している。1年ごとにテーマを設定し共同で調査をしていく。

問 スクールソーシャルワーカーや学校へのアンケート調査等を通じて、広く実態調査を行う予定としている。具体的には朝食をとらずに登校する児童生徒や、日々の学校生活で気になる点がある子どもを対象とし、事例の分析等を行う



美作大学との共同研究
(ワークショップ)の様子

常任委員会

経済建設委員会

ふるさとづくり寄付金パンフレットの配布

ふるさとづくり寄付金パンフレットについては、商品カタログになつてはならないという総務省のルールがある。

今回リニューアルした同パンフレットは、ふるさとづくり寄付金の活用事例などを紹介する内容となっており、寄付返礼品に関わる事業者のPRや、当市のひとつの取組などを紹介している。また、寄付者の声や、応援メッセージなども掲載している。

問 パンフレットの活用方法は。

答 企業誘致の際に活用しているほか、現在、進出していただいている企業に対しても配布している。

今回のパンフレットから、企業版ふるさと納税の紹介を含む内容



新しいふるさとづくり
寄付金パンフレット

としていたため、併せて周知を図っていききたい。

引き続き、市外・県外のイベントなどで配布し、幅広く活用していく。

問 美都温泉湯元館の入浴料金変更について。

答 燃料となる灯油価格の高騰や光熱水費の上昇、人件費の上昇などの影響により、7月1日から、大人は500円から600円に、小中学生は300円から400円に改定する。

なお、利用者への周知については、指定管理者の負担と責任において行う。



美都温泉湯元館

一般会計予算審査委員会

令和7年度 益田市一般会計補正予算第1号

問 コミュニティ助成事業費補助金150万円の内容を問う。

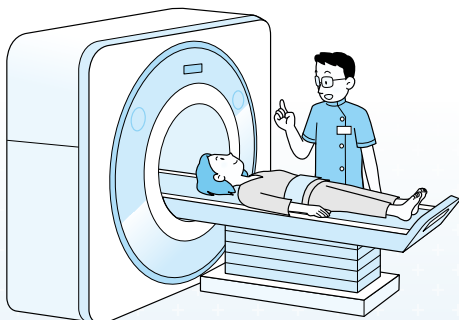
答 自主防災会が実施する事業で、防災資機材等の購入を計画している。倉庫を購入し、防災資機材や避難所パーティション・プライベートテント・ポータブル電源、モバイルバッテリーなど、災害時に活用できる備品等を準備する助成事業である。

問 高度医療機器等整備事業費補助金の補助割合等を問う。

答 現在の使用機器が、導入から10年を経過したため、益田赤十字病院が購入・整備する高度医療機器（CT）に対する補助金。補助割合は、事業費の6分の1である。

問 統計調査員の人員確保は十分なのか。

答 統計調査員については、指導員40名・調査員が300名。現時点で指導員については40名中30名、調査員については半分の150名を確保している。今後は、経験者への要請やそれでも不足する場合には、自治会にも依頼し何とか確保に努めていきたい。



特別委員会 委員長報告

特別委員会の2年間の取組について、議長へ委員長報告を行いました。



農業振興対策特別委員会

委員長報告概要

委員会の中では、国策として有機農業が推進される中ではありながら、有機農業で利益を上げることの難しさ、慣行農業との併用でなければ経営が成り立たない現状など、その難易度の高さも課題として浮かび上がってきた。

一方で、環境への負荷軽減、循環型農業の必要性は基より、安心安全な食を求める消費者のニーズも高まってきていると同時に、安心安全な食材を市民や地域に提供していきたいという有機農業者の思いも強く、継続的に展開するためには、個の取組ではなく、複数の地域や団体でのつながりにより収量や販路を開拓することが有効であるという事例が示された。

また、学校給食の地産地消を進めることで有機農産物の利用を広げ、計画的な需給バランスを確保することが、有機農業の推進におけるひとつの指針になりうることも学ぶことができた。

近年では、企業参入や、農業者・行政・企業との連携による明るい兆しも示されていることから、難しさもある一方で、有機農業の広範な展開に向けての糸口も感じることもできた。併せて、それらの取組を通じ、幅広く市民への周知を進めることで、有機農業の理解を消費者へ広げることも重要となる。

この度の調査により、有機農業の推進に係る行政の支援は欠かすことができないと、改めて認識した。農業従事者の増はもちろん、就農希望者の未来に希望が持てる施策の展開に向け、今後ともご尽力いただきたい。議会としても最大限協力していくことを申し添える。



有機農業の取組に係る現地視察及び研修の様子

萩・石見空港対策特別委員会

委員長報告概要

令和6年12月に開催された「羽田発着枠政策コンテストの評価等に関する懇談会」において、令和11年3月24日までを前提とした現行の配分の継続が決定した。今後4年間は、取組の進捗状況のモニタリングが毎年行われるため、島根県や圏域市町、地元住民、地元企業とさらに連携を図り、利用促進に努めることが求められている。

本委員会では、県、市、萩・石見空港利用拡大促進協議会、石見空港ターミナルビルから、それぞれの取組状況等の報告を受け、空港を活かしたまちづくりに関連しては、山陰道の整備と企業誘致の状況を確認した。

官民連携の取組として、益田商工会議所と合同委員会を開催し、取組状況を共有し意見交換等を実施するとともに、地元住民に向けて空港利用助成等を周知する街頭PRを実施した。

また、圏域市町への利用促進については、阿武町・吉賀町・浜田市・江津市・萩市・津和野町の各議会を訪問し、利用促進に関する意見交換を行い、引き続き協力体制を深めていくことを確認したところである。

萩・石見空港のもう一つの重要な路線である大阪線についても、季節就航における利用状況等の情報提供を受け、官民一体となった利用促進を図っていくことを確認した。

萩・石見空港の持続的な継続運航のためには、地元住民・地元企業・行政・議会が一体となり、途切れることのない空港利用の促進活動を継続しなければならない。そのことが、ひいては本市をはじめ圏域市町の発展につながるものと考えている。

市民・地域・圏域が一体となり、機運を盛り上げ、空港の持続的な発展につながることを期待する。



萩・石見空港街頭PRの様子



萩・石見空港外観

議 会 の 活 動

4月～6月までの議会（議員）の活動の一部を掲載します。また、議長は議会の代表として総会などにも出席しています。※定例会・臨時会・委員会・調査会は除きます。

各種会議・催し物（出席者）	
4／ 2(水)	地元県議会議員との懇談会（正副議長）
4／ 3(木)	主要地方道吉賀四見線改良整備促進期成同盟会監査（議長）
4／ 4(金)	令和7年度春季島根県市議会議長会定期総会（正副議長）
4／ 8(火)	街頭における交通安全キャンペーン（議長）
4／ 9(水)	明誠高等学校入学式（正副議長）
4／10(木)	石西政経懇話会 第254回定例会（議長）
4／15(火)	萩・石見空港の利用拡大に係るPR活動（正副議長、関係議員）
4／17(木)	浜田益田間主要地方道改良促進同盟会・矢原川ダム建設促進期成同盟会総会監査（議長、関係議員） 「第18回萩・石見空港マラソン全国大会」実行委員会第1回総会（議長、関係議員） 益田市犯罪被害者等支援の連携協力に関する協定締結式及び記念講演（議長、関係議員） 春季石見四市議会議長会（正副議長）
4／18(金)	令和7年度益田市病院勤務医師支援事業・赴任医師歓迎事業（関係議員）
4／21(月)	令和6年度益田市防犯協会会計監査（副議長）
4／23(水)	第156回中国市議会議長会定期総会・理事会（正副議長）
4／24(木)	第156回中国市議会議長会視察（正副議長）
4／25(金)	中世益田の至宝展 - 古文書・出土品 - 内覧会（正副議長） 石見の祈りと美 - 未来へつなぐ中世の宝 - 内覧会（議長）
4／26(土)	令和7年度益田地区防衛協力会総会（議長）
4／28(月)	益田まつり市民会議（議長）
4／30(水)	第72回日本水道協会島根県支部総会、第44回島根県下水道協会総会（議長、経済建設委員長） 令和7年度益田市病院勤務医師支援事業・赴任医師歓迎事業（関係議員）
5／ 7(水)	主要地方道吉賀四見線改良整備促進期成同盟会 令和7年度定期総会 他（議長、関係議員）
5／12(月)	看護の日にかかる市民啓発街頭活動（関係議員）
5／19(月)	全国市議会議長会第240回理事会、地元選出国会議員との意見交換会（議長）
5／20(火)	全国市議会議長会第101回定期総会（議長）
5／21(水)	市議会議員共済会第130回代議員会（議長） 萩・石見空港利用拡大促進協議会総会（各議員）
5／22(木)	令和7年度益田市防犯協会役員総会（正副議長）
5／23(金)	山陰自動車道（益田～萩間）整備促進期成同盟会総会（議長）
5／24(土)	令和7年度高津川総合水防演習（全議員）
5／26(月)	島根県への要望活動、益田美鹿人会との意見交換会（議長）
5／30(金)	益田市スポーツ協会社員総会（正副議長）
6／ 2(月)	浜田益田間主要地方道改良促進同盟会令和7年度総会（議長、関係議員） 矢原川ダム建設促進期成同盟会令和7年度総会（議長、関係議員）
6／ 5(木)	高津川漁業振興協議会通常総会（議長）
6／12(木)	益田法人会令和7年度第14回定時社員総会表彰式（議長） 益田市シルバー人材センター 定期総会（議長）
6／15(日)	益田市障がい者スポーツ大会（議長、関係議員） 萩・石見空港の利用拡大に係るPR活動（議長、関係議員）
6／22(日)	地域救急医療フォーラム（各議員）
6／27(金)	益田商工会議所 第132回通常議員総会（議長）
6／28(土)	益田の医療を守る市民の会 2025年度総会（議長、関係議員）
6／29(日)	第26回益田市ふれあい囲碁フェスタ（議長）
6／30(月)	「脱炭素まちづくりカレッジ」（各議員）



4/4
金
島根県市議会議長会
定期総会



4/17
木
春季石見四市議会議長会



5/26
月
島根県への要望活動



5/24
土
令和7年度
高津川総合水防演習



写真 上段：作業道講習の様子
下段：原田千栄さん

今回は、元・地域おこし協力隊 ^{はらだ ちゅう} 原田 千栄 さんにお話を伺いました！

Q1. 志望した動機は？

京都での生活中、心と水を買うことに疑問を感じ「伏流水が飲める山がほしい」と思い、山に興味を持つようになりました。

その後、山探しをはじめの中で、「山仕事をしないときれいな水が飲めない」と知り、「それなら山仕事を勉強しよう」ってことで、地域おこし協力隊に応募することを決めました。

Q2. 益田市の印象は？

川もあって海も山もある自然豊かなところで、その中でも圧倒的に匹見町が美しいと感じました。

Q3. これまでに取り組んできたことは？

協力隊として赴任して約3か月後に、名古屋から移住してきた同期男性を含む3名と「NPO法人 G.I.F.T in nature (ギフト イン ネイチャー)」を立ち上げました。

地域の所有林を使わせてもらう代わりに、私たちが作業道をつけて間伐をしています。支障木や枯れ木を処理して山を管理すること以外にも、キャンプ場の運営もしています。

協力隊卒業後の今は、キャンプ場の運営を続けながら、「森の担い手育成」「森林整備」「林業の6次産業化」の3つの活動を広げていきたいです。

Q4. 課題は何かありますか？

地元の人との関係性が重要。『いつか別の地域へ行っちゃうんでしょ』みたいな空気を感じることもありますけど、そう思う気持ちは分からなくもないですね。過去に何回も移住者が来て、いろいろと手をかけてあげたけど、結局離れて行ってしまった…という事実があって、その過去が積み重なって今があるので。

移住者も地元の人も、互いに相手の様子を伺うのは、どこの地域も同じだと思います。それぞれに折り合いをつけながら、良い関係を保っていくことが大切だと思います。



去る6月30日、市議会議員である弥重節子議員がご逝去されました。享年76歳。心よりお悔やみ申し上げます。

平成23年9月の初当選以来、3期10年間の長きにわたり益田市政の発展と地域住民の生活環境向上に寄与されました。

中でも、観光DMOや日本遺産を通じた地域の活性化、高齢者を含む交通弱者・情報弱者への支援対策、災害対策や内部統制制度、DX推進対策等、多岐にわたる課題に対し意欲的に取り組まれてきました。ここ数年間は、今季6月定例会一般質問でも取り上げられた地域公共交通の諸問題に対し、熱意をもって取り組んでこられたことも記憶に新しいところです。

また、市議会だより編集委員会の委員を務められており、今号では、編集後記をご担当でした。このため、編集後記については、当初予定どおり掲載しております。

あまりにも突然のことで、ご遺族の皆様のご心中は如何ばかりかと、お察し申し上げます。

市議会議員一同、謹んで故人のご冥福を心よりお祈りいたします。
(益田市議会議員一同)

ケーブルテレビ (ひとまろビジョン)

- ▶ 定例会・臨時会
どちらも放映
生放送 (111ch)
- ▶ 一般質問
再放送 (112ch)

編集委員

委員	委員	委員	委員	委員	委員	委員長	委員長
弥重	高橋	齋藤	阿知波	豊田	須藤	永戸	安達
節子	伴典	勝廣	武雄	浩	二三	明美	美津子

次回定例会の予定

次回定例会の予定は、9月2日(火)～9月24日(水)です。
なお、正式決定は8月下旬の議会運営委員会で行います。
詳しくは、議会事務局までお問い合わせください。

議会事務局 ☎ 31-0490

編集後記

早稲田大学デモクラシー創造研究所による令和6年度全国議会改革度ランキングで、浜田市議会が総合2位(調査回答1554議会)を獲得。前年度も13位で驚いていたのですが、今回は堂々の2位。分野別では「主権者の参画」で全国1位(当市議会371位)。「政策力の強化16位(同624位)」、議会機能の強化17位(同813位)でした。

「議会改革バカ」と言われて20年、悲願のトップテン入りができた」と、浜田市議会改革推進特別委員会の牛尾昭委員長(10期)が、SNSで喜びを語っていました。平成29年に透析患者となり、余命7年の宣告を受けた牛尾委員長。「残された時間の目標設定を、議会改革度調査10位に置く」と決意され、「通年会期制の導入」「はまだ市民1日議会」の実施など、改革を推進されてこられました。結果、平成29年度の総合ランク224位を皮切りに、令和2年度に87位、令和5年度には13位へと駆け上がりました。

当市議会も目標を掲げ、371位からのランクアップに挑戦していきたいものです。
(弥重節子)